

しんじゅ 新樹

「新樹」=水と緑のまちをイメージし、男女平等の葉が青々と茂るようという願いを込めました。

・市長インタビュー ～個性を輝かせていきいきと暮らせる社会の実現をめざして～ ……P2

・平成17年度男女共同参画基礎講座 報告 ……P5

・海外レポート～チュニジアからの手紙②～ ……P8

・おじやまインタビュー ……P6

・男女共同参画相談室より

<グループ>

・編集後記

前橋二中おやし倶楽部

<ひと> 助教授 おおもり 大森 あきお 昭生さん
杜氏 まちだ 町田 えみ 恵美さん



前橋二中おやし倶楽部主催 アドベンチャースクールin Akagiにて

* 男女共同参画

「参加」は仲間になることで、「参画」は方針決定の場に加わることです。

女性と男性が、社会の対等なパートナーとして、社会のあらゆる分野に共に参画し、喜びも責任も分かち合う社会を目指しましょう。



市長インタビュー

～個性を輝かせて

いきいきと暮らせる社会の実現をめざして～

もっと女性の意見を

早間 若手職員の方たちと「わいわいがやがやトーク」という試みをなさったそうですね。

市長 若手の皆さんから見ると、市長という立場は“とても上のほうの人”という感じがあるらしく、それではこちらの考えや前橋市の進むべき方向について、話をしたり示したりしたところでお互いなかなか通じない。少しでもホンネで聞いてもらったり聞かせていただいたりすることがいいんじゃないかと。当日は、全員発言してくれて楽しかったですよ。

早間 地区懇談会を開催するなど、「生の声を聴く」ということを大事にしていっていらっしゃるんですね。女性の参加はどうですか。

市長 女性は約1割から2割の間でしたね。特にこの地区懇談会は、各自治会を中心とした諸団体の役員ということで、誰でもいいよという集まり方でなかったの、そのような役員に女性が少ないということだと思えます。審議会や各委員会などで女性の登用を図っていますが、仕事で女性の皆さんを前にする機会は…数少ないですね。

ですから、圧倒的に女性の多い計量モニターの委嘱式などに行った時は、環境やゴミ問題、子育てや保育の問題等をこちらから投げかけて意見を聞いてみるんです。地区懇談会でも発言をお願いするんですが、もう少し女性の数が多くないとね。

早間 「かかあ天下」など、良い意味で群馬の女性は元気がいいと言われていますから、期待したいですね。

「男女共同参画」

木村 市長さんの考える男女共同参画とは、どういうものでしょうか。

市長 どちらが上でも下でもなく、五分五分でしっかり責任を持つ必要があるということかな。

ただ肉体的な面では、寿命からいえばおおむね女性のほうが長生きだけれど男のほうが腕力は強い。それはやっぱり特色があると思うんです。例えば、保育の現場に入る男性が出てきているけれど、最近のように子どもたちの安全が脅かされるような場合には、安心な面もあるでしょう。

肉体的な差はきちんとお互いの理解の上で立ち、精神的な部分は常にフィフティフィフティの責任を持つということを目指す。女性だから特別でもなく、男性だから特別でもない、という社会をどこかからスタートさせないと。

男性保育士がいることがニュースになるのではなく、その人の特色や

能力を生かしてうまくバランスを取って保育にかかわるのがいいんじゃないかな。

私は、男女共同参画が成熟し、成長していくにはそういう方向じゃないかと思っているんですよね。「男女共同参画推進」なんていうのが40年も50年も続いていくのではダメですよ。

木村 目指すものは精神面での平等意識と言うことですね。

役割分担意識について

山岸 「新樹」14号で、「男は仕事、女は家庭」ということに関して市民アンケートを取って見たのですが、この考え方についてはどう思われますか。

市長 我々の世代にも「男は仕事、女は家庭」という考え方は、ないことはないけれど、僕自身は少ないんじゃないかと思う。

僕らの生まれた、戦後の昭和21年から25、6年生まれあたりまでは、戦後の厳しい時だから、僕のまわりでは「みんなで力を合わせよう」と、男女役割分担というのを決めずに、お互いに男女平等でやろうという気持ちがあったように思うんですよ。

今の若い人たちには案外保守的というか個人主義というか、そう感じられる時がありますね。若い人の中にも役割分担意識があるのかな。

僕たちの地域はかまどでね、私自身、小学4・5年生で燃し火でご飯



市長に就任して2年、高木市長は男女共同参画についてどのような考えをお持ちなのでしょう。また、どのような人となりなのでしょう。

この3月で任期満了となる「新樹」編集委員5人がお話を聞きました。(この取材は12月に行いました)



が炊けましたからね。自分でお米を研いで、手首のところまで水を入れて。途中で火加減を見て蒸して。家庭科も得意だったんですよ。

山岸 当時のご経験があつて、今の柔軟な生き方があるんでしょうね。

私の子ども時代

近藤 ご自身の育った子どもの頃はどのような時代だったのでしょうか。

市長 昔は物も無かったし、貧しさをうまく生かしたんですね。今は豊かさを生かしてないんじゃないでしょうか。やっぱりあまりにも情報過多だと思うんです。豊か過ぎるということは、こういうことになりやすいんでしょうね。自然、社会、人間…あらゆる環境面で、我々の育った時代のほうがよかったように思います。今のように子どもたちを虐待するような事件も、数はずっと少なかった。子どもというものに対する社会の思いが違ったと思いますね。

あの頃はもっとコミュニティがしっかりしていたんじゃないですかね。子どもたちの教育も、地域の子どもは地域で育てる部分をしっかり持って、横のつながりがある共同社会だったんでしょうね。

近藤 本当に子どもたちが安心して外で遊べる社会であつて欲しいものだと思います。

自分らしく生きる

梅山 編集委員として男女共同参画にかかわる中で「自分らしく生きる」という言葉をよく目にしたのですが、これについてはどのようにお考えですか。

市長 私自身、「わたくしらしく頑張る」とか「生きる」という話もよくするんですけど、じゃあ“自分は何だ”ってことを考える時があります。

人というのは色々な“運”も“縁”もあると思うんです。その人の性格

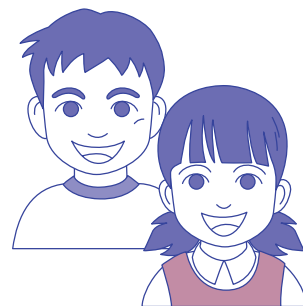
がそういうものを作り、縁自体もその人の性格によって大きく変わると。芥川龍之介が「運命はその人の性格の中にある」と書いているんですけど、僕はそんな気がして。

だから、常にホットな思いをもって生きる。自分にそう反復をしながら、明るく楽しくやろうと。これが「私らしく」じゃないかなと思うんですよね。

梅山 それを家庭や地域の中ではどのように実践していらっしゃいますか。

市長 いざ実践となると…家庭のこともできるだけ進んでやろうとはしていますけどね。我々夫婦はやることも責任も常にフィフティフィフティ、とは言っているんですよ。それは成人した子どもに対しても同じ。それが我が家らしく、私らしくかなあと思っています。

市長の職に就く前と後では、また忙しさが違ってきています。だから余計にうまく工夫をし、切り替えが非常に早くなって次に尾を引かなくなりました。それは役得かな。走りながら勉強し、走りながら決断し、



「まえばしWindプラン2004」 平成16年度実施状況

走りながら実行と。時々悩むこともありますが、それも走りながらですね。

梅山 前向きに受け止めていらっしゃるわけですね。

今後の取り組み

木村 前橋市の今後の取り組みの展望を聞かせていただけますか。

市長 これだけ少子化になってくると、時代を担う子どもというのは、行政の施策の中でかなり大きなものになってくると思うんですね。学童クラブを充実するなど行政もフォローしていかないと、女性の社会活動も鈍ってしまうので、その辺に力を入れていきたい。

ほかに「寺子屋」事業など、地域の高齢者を活用するということを前橋市は積極的に始めています。放課後の学校へ出向いて、子どもたちとドリルを一緒にやったりして、頭を使うことが自分のためにもなる。そういうことに地域のお年寄りが積極的に出てきてくれる。また、同じ地

域だから一緒に帰りましょうということも出てきて、子どもの安全確保にも繋がるかと思うんです。

地域力を高め、高齢者活用、それが高齢者の生きがいややりがいになる。子どもたちも経験豊かなお年寄りと触れ合うことで、お年寄りを敬ったり大事にしたり。触れ合う機会が多ければ多いほどお互いを理解できると思うんです。これをうまく活用して続けていきたいと思います。

山岸 最後に、もしご自身が「新樹」の編集委員だったらどのような人にインタビューしてみたいですか。

市長 そうですねえ。仕事を持って活躍されている女性や、新しい先進的な考えを持って取り組んでいるご夫婦などに話を聞いてみたいですね。

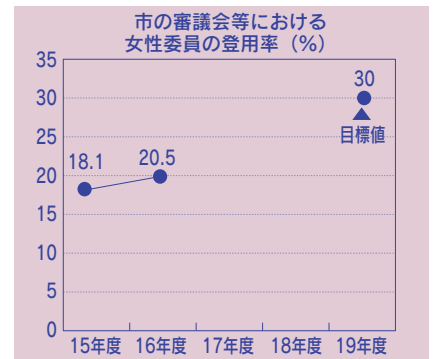
早間 ありがとうございます。今後の施策にも新しいアイデアが出てくるかもしれませんね。私たちもまた機会があれば、気づいたことなど提案させていただければ有難いと思います。

「まえばしWindプラン2004」は、男女共同参画社会の実現を目指し、平成16～20年度までに市が行う施策・事業の基本計画です。一部を紹介します。

基本目標Ⅲ

政策・方針の立案及び決定 過程への男女共同参画の推進

計画では、市の審議会等における女性委員の登用率を19年度末までに30%までにしたいとしています。(なお、15・16年度の数値は年度当初のものです。)



男女共同参画 審議会委員を 募集しています

お問い合わせは男女共同参画室
(TEL 890-6517)まで



木村雄介 市長 山岸絹恵
梅山東子 近藤綾子 早間輝彦

2年間を振り返って

- 新樹での活動を通して沢山の人に出会い、その全ての人たちのひたむきな姿にとても感銘を受けました。共に編集をし、私を助けてくださった委員さん方にも感謝申し上げます。(木村)
- 「今を生きる」まさに取材を通して出会った方々の、共通した姿でした。『新樹』によってその思いが伝わったのでしょうか。今後この経験を何かの形で役立てたいと思います。(梅山)
- 2年間でアツという間に経ち、とても有意義でした。小学生、市長とのインタビューは貴重な体験でした。小学生の輝いた瞳、市長の子どもの頃のお話は、とても印象深く心に残ります。(近藤)
- 企画を考えたり、取材やインタビューをしたりと、たくさんの刺激を受けると共に、モノを作り上げる楽しさと苦勞を知ることも出来ました。とても楽しい二年間でした。(山岸)
- インタビューした方の思いや、人となりを限られた紙面に表現するのはなかなか大変でしたが、皆で議論しカバーし合って発行にこぎつけた時の達成感は得がたい経験となりました。(早間)

平成17年度男女共同参画基礎講座 報告

隔年で行っている男女共同参画講座、今年度は「あなたらしさ応援講座」と題し、26名の皆さんが参加。生き生きと健やかで自分らしい生活が送れるようにと、5週にわたり4つの講座を受講しました。

10/25 (火) 知っておきたい身近な法律

講師：紺正行先生



最近話題の“熟年離婚”。財産分与や慰謝料の相場は？自分の死後、ごたごたが起きないように「公正証書遺言」の作成をお勧めします。もし、DVに苦しむ女性から相談を受けたら、「あなたは悪くないんだ」と言ってあげて、安全な場所の確保、専門機関の紹介をしてあげてください。

11/1 (火) 健康サロン アロマリフレッシュヨガ

講師：湯澤和子先生

日常生活で疲れた心と体を癒すために、アロマはとても有効です。今回は同時につぼマッサージやヨガの実技も体験しました。脂肪燃焼にはかんきつ系、リラックス効果にはラベンダー系オイルを！おうちでも是非試したいものです。



11/8・15 (火) こころの通う対話法Ⅰ・Ⅱ

講師：浅野良雄先生



トラブルの原因の多くは「誤解」です。話をよく聞く（相手を大切にすること）ことで誤解が少なくなり、相手への信頼感も生まれます。そのためには「自分の考えや気持ちを言う前に、相手が言いたいことの要点を相手に言葉で確かめる『確認型応答』」を意識的に使うことが有効です。

11/22 (火) 知っておきたい情報モラル

講師：笠原晶子先生

インターネットはとても便利。でもコワイから近寄らないという人も多いですね。個人情報を入力しない。利用するサイトの信頼度を確認する。ウイルス対策ソフトを導入する。知らない人からのメールには返信しない。などに注意して上手に活用しましょう。



ちよつと 一寸ちゃんがゆく



ちよつと一寸ちゃん—そのモデルは一寸法師。誰でも一度は聞いたことのある昔話を、静岡県庁の奥山和弘さんが男女共同参画の視点を盛り込んでアレンジしたお話が「一寸ちゃんがゆく」です。

講座の中で5回に分けてご紹介し、何気ない思い込みや差別意識についてお話ししました。

一寸ちゃんは旅の途上でかぐや姫、浦島太郎、鶴の恩返しのおつうさん、大柄な姫君などに会い、話を聞くうちに、こう思うようになりました。

姫は、小さい私をそのまま愛してくれました。

私は、大きい姫が好きなのです。

今のままでいいのです。

今のままだいいのです。

お互いを尊重するってこういうことかも知れませんね。

「一寸ちゃんがゆく」は、男女共同参画室でご覧いただけます。

おじゃまインタビュー

男女共同参画を積極的に実践しているひとやグループを紹介します。

自分たちも楽しむために

前橋二中おやじ倶楽部のWebページをご覧になったことがありますか。PTA活動をする中で、子どものためだけでなく自分自身も楽しみたい—父親たちの熱い思いから発足したこの会には、3年目の現在、約30名の会員がいます。趣旨に賛同した女性も10名ほど参加しているそうです。

「自分たちで企画をし、楽しみながら子どもたちを引き込んでいるんです。」と話す代表の高橋さん。

会ではおやじならではの大胆な発想を出し合い、企画から運営までを行っています。例年秋に開催の「アドベンチャースクールin Akagi」では、キャンプを通じて学校とは違った雰囲気、ルールの中で子どもたちと触れ合い、おやじたちも大らかな心と冒険心を発揮して、楽しんでいるそうです(表紙写真)。一昨年は中越地震を考慮して、キャンプは中止になりましたが、集めた参加費をそのまま義援金として寄付したとか。

ほかにもニューイヤー駅伝応援、七夕「だんべフェスタ」や県庁カウントダウンへの協力など、保護者の会には珍しく子どもを交えない活動もしています。また、学校からの依頼で、二



カウントダウン2006in群馬県庁の活動の様子

group

前橋二中おやじ倶楽部

中、中川小の校内コンピュータネットワークの配線のほか、PTAとも連携を図っているそうです。

おやじも地域へ

事務局の塩野さんは、「父親というのは仕事での付き合いに比べ、地域での付き合いが少ないでしょう。」と言います。

行事のあとの「反省会」を含め、倶楽部に参加することによって、社会のしがらみを離れて様々な職業の方々と会話できる、先生も一人のおやじとして付き合い本音も聞ける、逆に仕事に結びつく人脈が得られるなど、良いこ

とが沢山あるそうです。そのため我が子が卒業しても倶楽部に残る会員は多いのですが、新会員が増えないのが悩みだということです。

現在、他校のおやじの会との交流は少ないとのことですが、「将来的には学校の枠を取り払ったおやじの会になることが目標です。」

目立つことが大好きと言う皆さんの明るさとパワーに親しみと頼もしさを感じました。



(おやじ倶楽部Webページより)

■前橋二中おやじ倶楽部に関する問い合わせは

E-Mail : kt01@nifty.com

前橋二中おやじ倶楽部 代表 高橋一之さん へ

Webページもご覧下さい

→http://www.geocities.jp/st_shiono/oyaji.html



おおもり あき お
大森 昭生さん

助教授

：共愛学園前橋国際大学国際社会学部長

知っても生きやすい社会へ

大森さんは大学でジェンダー（※）論のゼミを開講したり、学外で男女共同参画について講演したりしています。

実は大森さん自身、以前は「男は仕事、女は家庭が当たり前」と考える学生だったそうです。しかし、専門の米文学研究をする上でジェンダーの知識は必要不可欠となり、入門書から読み始めたのがきっかけで、この問題がとても大切なことだという気づきを得た

そうです。

ゼミでは、講義やディスカッションを通して考えを整理していきます。これまで社会の中で当たり前とされてきたものを、違う視点から見ることにより、学生たちは日常生活の中にある様々な矛盾に気づくようになります。中には、気づいたものの、明日からすぐには変わらない社会、変わらない自分と付き合っていかなければならない“しんどさ”から、「知らなければよかった。」ともらした学生もいたそうです。それについて大森さんはこう言います。

「何も知らなかったときに通った道を、他にも選択肢があると知ってからまた選ぶかどうか。結果としてたとえ同じ道を選んだとしても、その選択の主体は自分にあるということで、人生の満足度や豊かさがまったく違う。知ったことがいけないのではない。知っても生きやすい社会にしていくことがこれからの課題であり、一人でも多く

の人が知り、知った人が共に取り組んでいけたらと思う。」

広く理解の共有を

大森さんは、昨年1か月の育休を取得した経験を通し、「親になる人がきちんと知ることができるよう、制度の周知徹底が必要」と言います。例えば、「妻が専業主婦でも産休取得中でも、そのパートナーは育休を取得できることを知らない人が多いですね。」

また、少子化について「誤解されているようですが」と前置きし、「海外の例に限らず国内でも、女性の働く割合の高い県ほど出生率が高い傾向がある。しかし、男女共同参画は少子化対策の視点より、あくまでも人権の視点を持って考えるべき」と理解を求めます。大森さんの言う「こういう学問が必要なくなる社会」になるよう、一人ひとりの理解とその共有が何よりも必要なのだと感じました。

※ジェンダー 生物学的な性別に対し、社会的・文化的に形成された性別をこう呼んで区別しています。

people



まちだ えみ
町田 恵美さん

杜氏：駒形町在住

自然の流れで

恵美さんは伝統ある蔵元の三姉妹の長女として育ちました。周囲の強い期待を感じながらも、一度は東京に出ましたが、「蔵の事務担当者が退職し、母がしている事務や接客を手伝おうと」ふるさとに帰ってきました。

折しも酒造り職人の頭領ともいえる杜氏の高齢化が進み、呼び寄せが困難になってきていました。父である社長が「自分達で仕込みをしよう」と方針転換した際、「酒の造り方も知らない

夫（当時は婚約者）が、蔵に入る、と埼玉から来てくれました。友達も親戚もない土地で彼だけに蔵の仕事をさせるわけにいかないと、自然の流れで私も一緒に入ったんです。」

そんな恵美さんの背中を押したのは、「積極的に酒造りの道を選んでいる全国の女性杜氏達との出会い」だったと言います。

その後、地元の蔵人2人とともに、越後杜氏から3年にわたり指導を受けました。「職人の技は見て盗めと言いますが、一人ではとても無理。皆で頭の仕事を観察し、後で報告し合っかしらて、従来経験や勘に頼ってきたところを数値化したりしました。」

今では苦労を共にした4人で仕込みをしているそうです。

やる気と工夫次第

一児の母でもある恵美さん、家事育児については、「一才までは私が育児重点で、今は保育園を利用し、帰こまこまつてくれば母が見てくれます。家の細々と

したことは夫婦共同です。」とのこと。パートナーや周りの理解と協力、職住近接の良さが生かされているようです。

微妙な温度管理や発酵の度合いなど、状況に応じて決断を下すのが杜氏の役目。「皆と相談しながらです。」と謙遜する恵美さんですが、伝統を守りながら、新しい造りにも挑戦しています。

厳寒期の仕込み作業、力仕事の多さから、酒蔵での仕事は女性には厳しいとされていますが、「作業の目的を理解すれば、あとはやる気と工夫次第。それはどんな仕事にも言えますよね。時代に合わせて私達流に造ったお酒が喜んで頂ければ最高です。」との言葉からは、後に続く女性蔵人の出現を期待しているようにも感じられました。

『おじゃまインタビュー』は、男女共同参画を積極的に実践しているひとやグループを紹介するコーナーです。

まわりにそういう方がいたら、ぜひ男女共同参画室まで情報をお寄せ下さい。

海外レポート ～チュニジアからの手紙②～

海外の男女共同参画事情や海外で活躍する“前橋人”について知っていたため、前回に引き続きJICA（※）シニアボランティアとして派遣されている笹木美子さんから1月に届いたレポートをお送りします。今回は、笹木さんが配属されているチュニジア女性連盟（UNFT）のお話です。

首都チュニス、面積は日本の約半分。人口960万人の共和制国家です。



アーム・サイド（アラビア語で“ハッピー・ニューイヤー”）！

チュニジアも今、季節は冬です。その上“雨期”でもあり曇天や雨天の寒い日が続いています。チュニジアはアフリカ大陸に位置するため“暑い毎日”を想像されるかもしれませんが、四季があり、北部のアルジェリア国境に近いアインドラハム近辺では冬になると降雪することもあります。

さて、今回はUNFTを中心にチュニジアのご紹介をします。UNFTは1959年に“女性への差別撤廃・社会的地位向上・貧困の撲滅”を目的に結成された女性NGO団体です。現在国内に26の支部、海外には14の活動拠点をもち、社会教育・職業訓練・識字教育・幼児教育・保健医療教育など広範囲にわたる活動を展開中です。チュニ



子どもの笑顔は万国共通

ジアはイスラミックの国の中でも女性の社会進出率において突出したものがあり、女性就労人口は2002年統計で25.3%となっていますが、年々上昇傾向にあります。例として、2004年には下院議員22.7%、司法官27%、弁護士31%を女性が占めるほどになっています。このように女性の社会進出が多いチュニジアですが、公立幼稚園・保育園がないためUNFTは働く女性支援の目的で幼稚園を40園ほど開設してきました。これらの園を訪れ、教職員への技術アドバイスや幼児達への教育が、私の主な仕事となっています。（続）

※JICA(ジャイカ)：独立行政法人国際協力機構

男女共同参画相談室より

～デートDV～

DV（ドメスティック・バイオレンス）は配偶者等の親密な関係にあるパートナーに対して振るわれる暴力のことをいいます。これは決して配偶者間だけの問題ではありません。いわゆる恋人同士でも起きていて、高校生や大学生など若者の間の問題にもなっています。



はじめは無かった暴力が、親密な関係になったとたん、身体的・精神的・性的など様々な形で起きることがあります。これを「デートDV」と呼んでいます。友達なら許されないようなことが、カップルになったとたん、「彼氏・彼女とはそういうもの」「愛情の証」などという価値観で行われるようになるのです。

どんな理由があろうと暴力を受けていい人などいません。DVもデートDVも、人権を侵害する行為であり、犯罪です。

自分とは違う相手の考え方、価値観などを受け入れ相手を尊重する関係を築けたら、ステキなカップルになると思いませんか。

（「デートDV防止プログラム実施者向けワークブック」／山口のり子著参照）

相談室では、配偶者からの暴力、セクハラ等の悩みをお持ちの方からの相談を受け付けています。

お気軽にご相談ください。

相談時間

月～金 8:30～17:15

場所

前橋市本町一丁目5-2
職員研修会館2階
男女共同参画相談室

電話

027-890-6520（直通）

編集後記

♪市長インタビューの司会を任せ緊張しましたが、市長のお人柄でしょうか、気取らず歯切れ良く回答されるので、テンポ良く進めることができました。（早間）

15号のご意見・ご感想は男女共同参画室まで。

発行日■平成18年3月15日 発行■前橋市 生活課 男女共同参画室 〒371-0023 前橋市本町一丁目5-2 職員研修会館2F
直通電話■890-6517 FAX■221-6200 メールアドレス■sankaku@city.maebashi.gunma.jp

編集■「新樹」編集委員

「新樹」は前橋市のホームページからでもご覧いただけます。気軽にアクセスしてみてください。